

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
大沢地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月
大沢地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

1	【重点】道路・交通	P 1
2	住環境・生活環境	P 2
3	自然・環境	P 2
4	産業・観光・商店街	P 3
5	【重点】安全・安心	P 4
6	健康・医療・福祉	P 5
7	教育・子育て	P 5
8	生涯学習・文化・スポーツ	P 6
9	地域コミュニティ	P 7
	会議経過	P 8

1 【重点】道路・交通

現状と課題

大沢地区は、鉄道駅がなく、バス交通もルートや便数が限られているため、市の拠点となる中心市街地や鉄道駅への交通が不便な地域です。

また、大沢地区は児童・生徒数が多い地区であり、狭い道路を登下校する際の安全確保に不安があります。

このようなことから、道路・歩道の拡幅や安全対策をし、子どもから高齢者までが安心できることと、効率的なバスルートの検討で利便性を向上させることが求められています。

対応方策

- ・狭い道路の交差点や見通しが悪い路地など、危険箇所を調査し、カーブミラーを設置する。また、設置場所の状況に応じて小型のミラーの設置も検討する（市民・行政）
通学路・狭あい道路の拡幅を検討する（行政）
- ・通学路を中心に歩道の段差解消やガードレール等交通安全施設を設置する（行政）
バス路線拡充やコミュニティバスの経路について、スーパーに買い物に行けるようなルートの変更と増便を検討する（市民・行政）
- ・バス・トラックなど大型車の通行が増加しているため、定期的な路面の補修と安全を確保するための対策を行う（行政）
- ・高齢者への公共交通機関の利用促進のため、バスの乗車料金に対してシニア割引を検討する（行政・その他）



2 住環境・生活環境

現状と課題

大沢地区では、一部の地域で、物理的に場所の確保が難しいなどの理由で、ごみ・資源集積場所が少ないため、一度の収集日に大量のごみが積まれてしまうことがあるほか、ごみの分別のルールが守られていないなど住民のマナーについての課題もあります。

住宅地の環境については、戸建・集合住宅が増加していますが、その周辺の道路や歩道の整備がされていない状況もあり、課題となっています。

その他、上下水道施設などライフラインの老朽化も心配されています。

対応方策

- ・ごみ・資源集積場所の確保のために、適正かつ効果的な設置場所に関する検討を行う（市民）
- ・ごみの出し方（分別）を徹底し、モラルを高める（市民）
- ・老朽化する上下水道施設などの計画的なメンテナンスを行う（行政）

3 自然・環境

現状と課題

大沢地区には、相模原北公園や相模川自然の村公園など、市内外から多くの方が訪れる交流の場があります。

一方、身近な地域交流の場や子どもの遊び場として、街区公園やふれあい広場などが利用されていますが、地域によっては位置的な問題や不足している状況があるため、より充実を図ることが求められています。

また、大沢地区には、良好でまとまりある農地があることが特徴ですが、農業者の減少や耕作放棄地が増加傾向にある中、農地の管理面に課題があります。

対応方策

- ・ふれあい広場の設置について検討する（市民・行政）
- ・新規就農者の育成を強化する（行政）
- ・農地の適正管理を促進する（行政）

4 産業・観光・商店街

現状と課題

大沢地区は、相模川とその周辺のみどりなど自然環境に恵まれており、上大島キャンプ場や相模川自然の村、相模原北公園などの地域資源を生かしたレクリエーション施設や憩いの場は、大沢地区の住民のみならず、市内外からも多くの方が訪れ、賑わいを見せています。

しかしながら、素晴らしい大沢地区の地域資源を生かしきれていない状況があり、地域の魅力を更に引き出すには、観光・商業・農業などあらゆる分野が連携し、一体感をもって地域資源の効果的な活用を検討することが求められています。

対応方策

- ・相模川自然の村公園周辺の既存施設（舞台など）を有効活用する（市民・行政）
- ・相模川自然の村公園周辺のドリームランドマップの取組を推進するとともに進捗をフォローする（市民・行政）
- ・相模川清流の里の有効活用をするとともに、日帰り温泉等を検討する（市民・行政）
- ・地元農産物等を販売できる場所を検討する（市民・行政）
- ・リニア中央新幹線の整備に伴い、相模川を渡るリニア中央新幹線のビューポイントとしての活用を検討する（市民・行政）



5 【重点】安全・安心

現状と課題

大沢地区では、安全に安心して暮らせる地域づくりのために、地域において安全・安心パトロールや小学生の登下校時の見守り、さらには災害に備えた防災組織の取組を連携して実施していますが、特に災害時に重要な役割を担う防災組織については、自主的な活動をしているものの、大規模な自然災害などへの防災に対する意識や対策は、十分とはいえず、知識不足も課題となっており、災害時の避難所の環境なども心配されています。

また、防犯体制については、安全・安心な環境づくりを地域で充実させるとともに、大島団地方面への交番の設置が求められています。

対応方策

- 地域の住民が、登下校時に見守りに出るなど、子どもの見守り体制を充実させる（市民）
- ・子どもの活動実態を把握し、安全・安心に繋げる（市民）
防災組織の充実とともに、消防団 0B 等を中心に災害時支援組織を検討し、また、専門員やリーダーとなる人材を確保・育成する（市民・行政）
- ・災害時要援護者について、把握方法や災害時の対応など地域の連携及び体制を確立する（市民）
- ・鳩川で草が生い茂っている場所があるので、防犯・防災の観点から、必要に応じて草刈をするなど管理を徹底する（行政）
- ・鳩川の河川整備について、地域の安全・安心を確保するため、河川改修を計画的に実施し、流域の安全度の早期向上を図る（行政）
- ・局地的集中豪雨（ゲリラ豪雨）等による浸水被害対策や道路冠水時の安全対策を行う（行政）
- ・避難所に冷房設備を設置する（行政）
- ・避難所での感染症の発生やストレスの減少など二次災害への対応と環境改善を検討する（市民・行政）
- ・「県の予算・制度に関する要望」等の機会を捉え、大島団地方面への交番設置について継続的に要望を行う（市民・行政）

6 健康・医療・福祉

現状と課題

大沢地区には、溪松園や特別養護老人ホームなど高齢者福祉施設が多くあり充実していますが、一方で子育て世代を支援する施設が少ない状況です。

今後、更に少子高齢化が進む中、多世代が交流でき、健康でいきいきと暮らせる環境と、地域住民同士で支え合う取組が求められています。

対応方策

- ・ 溪松園について、子どもをはじめ、多世代で利用できる複合型の施設としての整備や有効利用を検討する（市民・行政）
- ・ 一人暮らし高齢者の見守りについて、民生委員など地域と企業の連携を検討する（市民・事業者・行政）
- ・ 高齢者の移動手段を検討する（市民・事業者・行政）
- ・ 独居高齢者の見守り隊や災害時の安否確認のための黄色い旗の作成を検討する（市民）
- ・ 特別養護老人ホームの活用を図る（市民・事業者・行政）

7 教育・子育て

現状と課題

大沢地区では、子どもたちを取り巻く環境の変化、地域住民間での連携の希薄化など、児童や生徒と地域のコミュニケーション不足の心配があることから、学校・地域・家庭の連携を強化し、子どもたちが地域に根ざし、地域を大切にする取組が求められています。

対応方策

- ・ 子ども会への入会促進を強化する（市民）
- ・ こどもセンターの活用を促進する（市民・行政）
- ・ 子育て相談などの相談員の手伝いを地域で確保する（市民）
- ・ 子育てに適した自然環境を活用する（市民・行政）
- ・ 地域活動で高齢者などが普段困っている草刈りやごみ拾いを、中学生などのボランティアに参加してもらう（市民）

8 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

大沢地区には、地域の史跡、文化財、お祭りなど伝統的な芸能・文化があり、貴重な財産となっています。

また、国登録有形文化財（建造物）である旧笹野家住宅（主屋・長屋門）は、近世末頃の建築と推定され、郷土の生活文化を知る上で大変貴重な歴史的景観を形成する住宅です。

これらの貴重な財産を次代に引き継ぐことが大切ですが、後継者などの人材確保や継承の手段が課題となっています。

対応方策

- ・ 伝統芸能を地域の方に伝えるとともに、学校の学習の中にも取り入れる（市民・行政）
- ・ 地域文化（獅子舞など）の後継者の人材確保及び育成について検討する（市民・行政）
- ・ 旧笹野家住宅の整備・活用の手法について検討する（例えば、蚕づくりや繭を活用した地域おこし、農産物の販売場所としての活用など）（市民・行政）
- ・ 生涯学習の場として、相模原北公園・旧笹野家住宅・上大島キャンプ場などを巡る散策コースを設置する（市民）



9 地域コミュニティ

現状と課題

大沢地区においても、他の地区と同様、自治会、PTA、子ども会、老人会など地域コミュニティの形成に重要な活動団体への加入率の低下や参加者が減少するなど、地域環境の変化や生活スタイルの多様化により地域への関わりが希薄になっていることが心配されています。

同時に、各団体では高齢化等による担い手不足も課題となっています。

一方、地域でのふれあいを深めるために、地域活動の充実や活動団体間の連携とともに、活動の場の確保と新たな活動拠点が求められています。

対応方策

- ・ 地域活動団体の人材育成と次代の人材確保について検討する（市民）
- ・ 高齢者福祉施設などの開放を検討する（市民・その他）
- ・ 自治会加入促進の際、会員特典の厚生施設利用カード（Jichi Pass じちばす）のPRをする（市民）
- ・ 空家・空室を活用し、ふれあいサロンや高齢者医療相談を実施し有効活用を図るとともに、企業の入居なども検討する（市民・行政）
- ・ 自治会館の有効利用を促進し、地域住民がお互いに顔が見えるようにする（市民）

会議経過

日程	会議内容	委員出席数
平成30年 5月15日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	15名
6月19日	第2回 ・課題と対応方策検討	18名
7月17日	第3回 ・課題と対応方策検討	15名
9月18日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	16名

